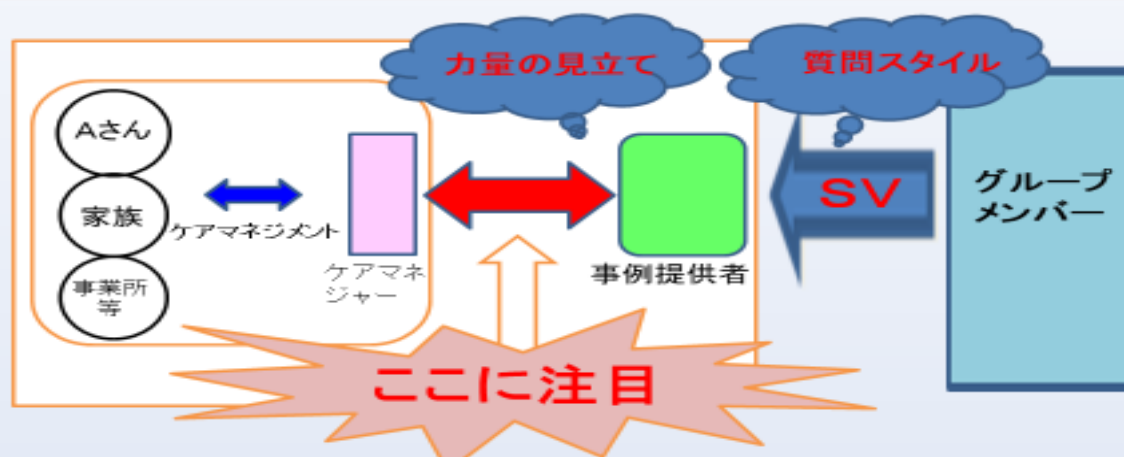


持ち寄り事例による実践指導事例の検討演習一手順

1. グループによるスーパービジョンの趣旨

- ① 事例提供者（主任介護支援専門員）が相手の介護支援専門員に良い支援（実践指導）をするため。
- ② 事例提供者が実践指導を振り返り、頭の整理や心の整理をすることを助ける。
- ③ 事例提供者の指導実践を通して、参加者一人ひとりが主任介護支援専門員（スーパーバイザー）としての学びを得る。

7類型 持ち寄り事例－演習ポイント



「事例検討」でなく「スーパービジョン」を意識

主任介護支援専門員更新研修での実践指導事例の検討演習とは？
メンバーに求められる「3つのアセスメント能力」

- ③ 事例提供者（バイザーとしての主任介護支援専門員）
が直面している困難を読み解く力

事例提供者 = Bさんのバイザー

- ② 担当CMが直面している困難を読み解く力

Aさんの担当ケアマネジャーBさん

- ① ケースの状況を読み解く力

Aさん・家族・事業所等

バード
ビュー
俯瞰的
視点

2. スーパービジョンの進め方

① 進め方の説明と確認（司会者）

- ・グループによるスーパービジョンの趣旨や進め方・時間配分等の確認
- ・事例提供者への労い等のメンバー皆を和ませる雰囲気作り

② 実践指導事例の紹介【30分以内】

- ・紹介の手順： **テーマ ⇒ 論点 ⇒ 事例紹介（論点に関わる要点） ⇒ 論点**
- ・全て読み上げでなく極力話し言葉で、大事な箇所は肉付け説明

③ 実践指導に係る検討（スーパービジョン）

- ・指導実践の感想や批評止まりでなく基本的に「質問スタイル」に心掛ける
- ・司会者は話の展開を読んで適宜「**論点中心のスーパービジョン**」に軌道修正
- ・SVの「ポイントとなる核心」と思ったら話題を変えずに更に重ねて深掘り

【スーパービジョンのポイント】

- ① 焦点を当てるのは「ケース(Aさん)」でなく「事例提供者の困り事」
 - ・事例提供者が「何を気にしているのか?」「それは何故か?」
- ② 事例提供者（バイザーとしての主任介護支援専門員）が考えた**論点中心**
 - ・事実の開かれた確認質問中心 ex「〇〇について教えてください…」
 - ・自分が思う「技(知識やスキル)の交換」は検討の終盤に
- ③ 7類型における指導ポイントを視野に質問
 - ・自らの指導経験も踏まえSVスキルとして取り込み成長する姿勢

④ まとめ／スーパービジョンの感想【最後の10分】

- ・順番：グループメンバー(司会・事例提供者以外) ⇒ 司会者 ⇒ 事例提供者

○ 皆が心掛けるやり取り（視点のシフト）

「ケース(Aさん)への援助」⇒「そのケースと向き合うCMへの援助」
⇒「そのCMと向き合う主任介護支援専門員（事例提供者）への援助」へ

【自由メモ／自分が気を付けたい事】
